

取 組 み	<p>エ 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援</p>												
考 え 方	<p>生活のあらゆる場面で、認知症になってからもできる限り住み慣れた地域で普通に暮らし続けていくための障壁を減らしていく「認知症バリアフリー」の取組みを関係部門が連携しながら推進する。</p> <p>また、若年性認知症の人への支援を推進するとともに、認知症の人の社会参加活動を促進する。</p>												
対 象 事 業	<p>(1) オレンジサポーター地域活動促進事業 (2) 認知症高齢者見守りネットワーク事業 (3) 認知症高齢者位置情報探索事業 (4) 身元不明 認知症高齢者緊急一時保護事業 (5) 認知症初期集中支援推進事業（認知症地域支援推進員の配置） (6) 若年性認知症啓発セミナー（府市共催） (7) 認知症の人がいきいきと暮らし続けるための社会活動推進事業</p>												
進 捗 状 況	<p>(1) オレンジサポーター地域活動促進事業</p> <p><事業の経過></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度から認知症強化型地域包括支援センターに認知症地域支援コーディネーターを配置。 認知症サポーター等が支援チームを作り、認知症の人やその家族への支援を行う「ちーむオレンジサポーター（※1）」の仕組みを構築するとともに、認知症の人にやさしい取組みを行うオレンジパートナー企業の登録を増やしていくことにより、認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりに取り組む。 <p><目標の進捗状況></p> <p>令和5年度末までに「ちーむオレンジサポーター」を300チーム</p> <table border="1" data-bbox="392 1346 1070 1494"> <thead> <tr> <th>R5 目標数</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>300チーム</td> <td>53チーム</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>年次別目標数</td> <td>50チーム</td> <td>100チーム</td> <td>150チーム</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度は、オレンジサポーター（※2）を養成する研修（ステップアップ研修）をオンラインにより3回開催した。（参加者262名） 令和3年度に立ち上げたチーム活動のうち、体操・運動が15チームと最も多く、次いで認知症カフェが12チームとなっている。その他には、創作活動や農園活動など屋外での活動も多くなっている。 令和4年度は、さらなるオレンジサポーターの養成とチームの立ち上げのため、市域で実施するステップアップ研修を各区の認知症地域支援コーディネーターが実施できるよう拡充して実施する。また、広く周知を行うため、チーム活動を掲載したリーフレットを作成するとともに、本市ホームページにチームの立ち上げ状況や取組内容を掲載する。 引き続き、オレンジパートナー企業の登録勧奨も進めており、令和4年3月末現在で1,276件の登録がある。 	R5 目標数	R3	R4	R5	300チーム	53チーム	—	—	年次別目標数	50チーム	100チーム	150チーム
R5 目標数	R3	R4	R5										
300チーム	53チーム	—	—										
年次別目標数	50チーム	100チーム	150チーム										

※1 オレンジサポーターで構成される、認知症の人やその家族を中心に、地域の人や支援者、企業などが共に支える取組みを行うチーム。

※2 認知症サポーターのうち、認知症の人やその家族への支援ボランティア活動者養成を目的としたステップアップ研修を受けた人。

(2) 認知症高齢者見守りネットワーク事業

<具体取組・実績>

- ・万が一認知症高齢者等が行方不明となった場合に、警察捜索の補完的なものとして、その人の氏名や身体的特徴等の情報を介護等の事業者や地域住民・企業等の協力者にメールで配信し、早期発見・保護につなげる仕組みを構築している。
- ・行方不明となるおそれがある認知症高齢者等が、氏名、身体的特徴、写真等の情報を見守り相談室に申請する事前登録の仕組みを併置し、登録の際、希望者に見守りシール・アイロンシールを配付するなど身元不明対策を強化している。
- ・令和4年7月20日から、株式会社セブン-イレブン・ジャパンと「気にかける」地域づくりのための連携取組を実施し、従業員向け周知チラシ（参考資料④）をセブン-イレブンの大阪市内一部店舗において活用していただくことで、地域の見守りの目を増やしている。

登録者・協力者の登録状況

R2 目標数		年度別登録累計数（カッコ内は単年度の登録数）						
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
登録者 (人)	2,500	127	756 (629)	1,609 (853)	2,285 (676)	3,025 (740)	3,618 (593)	4,122 (504)
協力者 (件)	2,500	963	1,450 (487)	1,803 (353)	2,271 (468)	2,493 (222)	2,690 (197)	2,776 (86)

- ・令和2年度において登録者及び協力者ともに、目標数を達成している。

行方不明者協力依頼メール配信件数

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
配信件数	107件	121件	123件	125件	118件	118件
未発見	2件	0件	2件	1件	0件	0件
発見率	98%	100%	98%	99%	100%	100%

- ・協力者（民生委員・児童委員、商業施設、医療機関など）や地域住民、警察のネットワークにより、発見に繋がっている。少数ではあるものの未発見の場合がある。

(3) 認知症高齢者位置情報探索事業

<具体取組・実績>

- ・行方不明のおそれがあるため位置情報システムが必要である高齢者に対し、位置情報専用端末を利用した発信機の貸与を行っている。

各年度末の利用者の状況

(人)

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
利用者数	29	43	36	41	45	40	41

※非課税世帯

- ・平成 28 年度以降、非課税世帯における利用者は 40 人程度で推移している。
- ・令和 3 年度、電話による問合せが 8 件、ネットでの問合せが 857 件、現場急行が 1 件となっている。

(4) 身元不明 認知症高齢者緊急一時保護事業

- ・市内の警察署で保護した身元不明の認知症の人に対し、身元が判明するまでの期間、緊急一時保護施設で保護を行い（14 日以内）、身元の特定に努めるとともに、適切な支援につなげるため関係機関と連携する。

<具体取組・実績>

一時保護利用件数

(件)

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
利用件数	14	9	11	16	19	9	0

- ・平成 28 年度以降、利用件数は微増となっていたものの、令和 2 年度以降は減少している。

(5) 認知症地域支援推進員の配置（再掲）

<事業の経過>

- ・平成 28 年度から各区認知症初期集中支援チームに「認知症地域支援推進員」を配置し、認知症の人に対し状態に応じた適切なサービス提供されるよう、地域において認知症の人を支援する関係機関の連携を図る取組みや若年性認知症や支援困難症例への対応を行っている。

<再掲> 認知症初期集中支援推進事業における支援件数

(人)

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
若年性認知症の人への支援	52	55	49	63	55	49

(6) 若年性認知症啓発セミナー

<事業の経過>

- ・平成 30 年度から大阪府と共催で、若年性認知症の早期診断・早期対応に向け、企業等の産業医、産業看護師、産業保健師、人事・労務担当者等の産業保健スタッフ対象の啓発セミナーを行っている。

若年性認知症啓発セミナー参加者数

(人)

年度	H30	R1	R2	R3
参加人数	179	133	中止	32

- ・令和 3 年度は、産業医や産業保健を対象にオンラインにより実施した。
- ・令和 4 年度についても、府と連携して実施を予定している。

(7) 認知症の人がいきいきと暮らし続けるための社会活動推進事業

ア 普及啓発・本人発信支援 (5) 参照

評価
・
課題
と
今後
の
方向
性

○認知症バリアフリーの推進

評価・課題

- ・ちーむオレンジサポーターの立ち上げは順調であり、地域において潜在的にちーむオレンジサポーターの担い手になると期待される方は相当数いることを把握している。新型コロナウイルス感染症の影響により地域活動が難しい状況はあるが、今後は身近なところでもステップアップ研修を開催し、チームの増加につなげる必要がある。
- ・オレンジパートナー企業は順調に増加しており、企業等による認知症の人にやさしいまちづくりの推進に寄与している。
- ・その他、認知症バリアフリーを推進するため、月間（9月）等の普及・啓発や見守りネットワーク事業などの地域の見守り体制づくりを進めているところであり、成年後見制度のさらなる利用促進や虐待防止の取組推進、消費者被害防止施策等を推進している。

今後の方向性

- ・ちーむオレンジサポーターの整備を推進するため、引き続きオンライン活用や各区でのステップアップ研修の開催を進めるとともに、好事例の横展開を図り、認知症の人や地域住民や企業等が参画しやすいよう周知啓発を進めていく。
- ・オレンジパートナー企業と連携し、月間（9月）の取組依頼と実態把握を行うなど働きかけを検討していく。
- ・そのほか、「認知症バリアフリー」の取組みを進めるため、国の認知症バリアフリー宣言等の状況を注視しつつ、各関係機関との連携を進める。

○若年性認知症の人への支援・社会参加支援

評価・課題

- ・若年性認知症の人への支援については認知症地域支援推進員で対応しているが、支援の範囲が広範囲にわたること、各区単位では対象者が限られスキルの積み上げが難しいことなどから、研修等の実施により支援力の向上を図ることが重要である。
- ・また若年性認知症の人への支援に関わる機関として、企業等の就労機関や障がい福祉サービス事業所等との連携を深めていくことも必要である。

今後の方向性

- ・若年性認知症の人への支援施策について、若年性認知症の人を含む認知症の人本人に合った形での社会参加活動ができる体制構築を引き続き検討する。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・令和4年10月から、認知症地域支援推進員への専門職による後方支援等を目的とした若年性認知症支援強化事業を実施予定。・認知症の人の身近な地域で社会参加活動やピアサポート活動が行われるよう、市内全域での支援体制を整備し、活動場所の拡大を図る。(再掲、ア 参照) |
|--|